

平成29年度 府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（**計画段階**・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、社会総がかりの教育活動を展開し、将来の地域社会を支える水産・海洋の将来のスペシャリストを育成する。</p>	<p><b>（成果）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全生徒が希望進路を実現した。就職では、15年連続内定率100%、進学では、国公立大学に24年連続の合格となった。</li> <li>2 各学科・コースとも、外部機関と連携しながら質の高い専門教育を展開するとともに、国や大学等が主催する各種研究発表に参加し、最優秀賞を獲得するなど全国規模での活躍が続いた。</li> <li>3 資格取得において、京都府教育委員会教育長表彰の対象生徒が84%、総数は過去最多となる1,063件に達し、専門教育を推進する大きな力になるとともに、生徒の学習意欲を向上させた。</li> <li>4 部活動への加入率が99%という府内でも際立つ水準を維持し、学校の活性化につながった。また、国際大会出場4人を含め、近畿・全国レベルの大会に出場した生徒は延べ165人（昨年度比+16名、全校生徒比1.7人に1人）に上り、高い目標を設定し、達成に向けて切磋琢磨する文化を根付かせることができた。</li> <li>5 ボランティア活動の活発な状況が続いており、今年度、過去最高となる118種の活動に延べ6,561人が参加し、豊かな人間性を育むとともに、地域の活性化に貢献した。</li> <li>6 前期・中期選抜とも2.17倍という過去にない倍率となり、教育活動が評価を受けるとともに、広報活動の見直しも奏効した。</li> <li>7 HPの充実を図り、アクセス数が過去最高の96万件超（昨年度比+31万件）となり教育活動を広範囲に発信することができた。</li> <li>8 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）に、年間を通して2,481人が、また、新規事業「コラガ推進プログラム」に260人の児童・生徒が参加し、キャリア教育の一環として水産・海洋に関する理解を深めた。</li> <li>9 教職員の資質・能力の向上の観点から、公開授業の活性化、他校への授業見学、予備校教員セミナーへの参加等に意欲的に取り組み、授業力向上に対する意識を高めることができた。</li> <li>10 海洋プロジェクト（体系的な学習及び進路指導）を通して組織的な指導を行い、学年全体の学力や意識が向上し、府立高校実力テストA・B問題双方において非常に高い成績を収めた。</li> <li>11 地歴・公民科と学年部が連携し主権者教育に体系的に取り組み、選挙に対する心構え等を指導することができた。</li> </ol> <p><b>（課題）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「生徒指導アンケート」を導入するなど、規範（人権）意識の高揚を図ったが、指導事象が増加に転じた。教育活動を通じた学びに対する理解が弱く、着実な成長につながりにくかった。 また、下宿担当者を置くなど、下宿生に対する指導の強化を図ったが、期待した成果が得られず、視点を変える必要がある。</li> <li>2 多様な生徒が入学してくる現状を踏まえ、進級及び進路保障の観点から指導体制を強化し、指導状況を共有する。</li> <li>3 学力向上に向けて組織的な指導を展開してきたが、成績不良科目数が増え、個に応じた指導の充実と徹底が求められる。</li> <li>4 広報発出が遅れ、掲載回数が大幅に減少した。また、新聞広報の生徒配布が不徹底で、自己有用感育成の面で課題が残った。</li> <li>5 アクティブ・ラーニングに係る研修への参加を促したが、手法や効果等の面で課題が見え、さらに研究を重ねていく。</li> <li>6 大学入試センター試験の指導を強化し、過去最高の得点率となるなど成果は見られたが、目標点に届かない科目もあり、総合力養成に向けて検討する。</li> <li>7 自転車通学に関わる無灯火、並列走行等危険な状況が見受けられるため、交通に係る指導を強化し、安全を確保する。</li> </ol>	<p><b>1 学力向上と希望進路の実現</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 徹底した教材研究により授業・実習の質を改善するとともに、海洋プロジェクトを通して、より高い目標を掲げさせる。</li> <li>(2) 学力に課題がある生徒に対して、早期から妥協のない指導を行い、多分掌が関わるなか、進級・卒業につなげる。</li> <li>(3) 学年の実態に応じた相応しい指導を施し、教育効果を高める。</li> <li>(4) 学習する癖を身に付け、安定して学習と向き合う生徒を育む。</li> </ol> <p><b>2 基本的生活習慣の定着</b></p> <p><b>規範意識の徹底</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒指導に対する基準を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、課題のある生徒に対して指導の余地を残さない。</li> <li>(2) <b>挨拶・マナーの徹底</b> 日常の学校生活を「面接試験」の意識で過ごすことにより、「いつ」「どこでも」「誰に対しても」挨拶できる生徒を育てる。</li> <li>(3) <b>下宿生、寮生に対する指導の徹底</b> 下宿管理者と連携し、下宿生の内面に迫る指導を通して自立支援を行う。寮生に、常に模範生としての言動を心がけさせる。</li> </ol> <p><b>3 心の育成</b></p> <p><b>人権意識の育成</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 指導シラバスに則り体系的に全体指導を行うとともに、突発的な事象に対して、個々の内面に迫る指導を行う。また、指導において、生徒指導部と人権教育担当者の連携を強化する。</li> <li>(2) <b>自己有用感の育成</b> 自己有用感を目標に向かって努力する支えと捉え、「居場所」と「出番」を意識した教育活動を展開するとともに、日常の声かけを重視する。</li> <li>(3) <b>主体性の育成</b> 生きる真の力として主体性を重視し、自らの意志で主体的に行動し、さまざまなことに積極的に挑戦する逞しさを育む。</li> <li>(4) <b>理解力の育成</b> 高校生活の諸活動の真の意味を理解させ、成長の糧とする。</li> </ol> <p><b>4 「課題発見力」「知的体力」に資する専門教育の推進</b></p> <p>新たな研究テーマに気づく「課題発見力」を育み、失敗しながらも粘り強く研究に携わる「知的体力」を磨く。</p> <p><b>5 安心・安全の徹底</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 命と隣り合わせの実習が多いため、常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認の徹底を図る。</li> <li>(2) 自転車通学における交通ルールの遵守、安全第一を徹底する。</li> </ol> <p><b>6 広報活動の強化</b></p> <p>生徒数減少等環境の変化に対応する広報活動の在り方を検討し、生徒募集において確かな結果を残す。</p> <p><b>7 同僚性の推進</b></p> <p>OJTの観点から、学科・コース、教科、分掌内において同僚性をさらに推進し、「チーム海洋」として資質・能力の向上を図る。</p> <p><b>8 外部機関との連携</b></p> <p>水産・海洋関連産業や外部機関との連携をさらに推進し、最先端の分野に触れるとともに、地域の活性化や雇用創出に貢献する。</p> <p><b>9 家庭、地域との連絡及び連携の強化</b></p> <p>小まめな家庭連絡により本校教育に対する理解、協力を得る。また、地域行事へ参加し地域と触れ合い、人生経験を豊かにする。</p> <p><b>10 全国水産・海洋高等学校カッターレース大会の成功</b></p> <p>本校が主管校となって実施する全国大会を成功に導く。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
組織・運営	京都府教育委員会の指定事業「スペシャリストネットワーク京都」を活用し、すべての生徒の自信や誇りに繋がる専門教育を展開するとともに、特色ある教育活動の広報に努め、魅力ある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検し指導することにより、高い達成状況を実現する。 [学校経営計画実施段階における具体的方策の評価A+Bの割合]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	70%未満		
		A	B	C	D							
	90%以上	89～80%	79～70%	70%未満								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある教育活動を推進するとともに、専門教育の魅力を中学生及びその保護者に発信することにより志願者数の増加を図る。 [平成30年度入学者選抜（前期選抜）における志願倍率]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.8以上</td> <td>1.7～1.6</td> <td>1.5～1.4</td> <td>1.4未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	1.8以上	1.7～1.6	1.5～1.4	1.4未満			
	A	B	C	D								
	1.8以上	1.7～1.6	1.5～1.4	1.4未満								
シティズンシップ教育を推進するとともに、望ましい規範意識や人権感覚を備えた生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権に係る特別指導件数を減少させる。 [特別指導件数の減少割合]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%以上減</td> <td>49%～30%減</td> <td>29%～10%減</td> <td>10%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50%以上減	49%～30%減	29%～10%減	10%未満			
	A	B	C	D								
50%以上減	49%～30%減	29%～10%減	10%未満									
<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動への参加を推進することにより、望ましい人格の育成を図る。 [年間参加延べ人数の増加割合]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35%以上増</td> <td>34%～25%増</td> <td>24%～10%増</td> <td>10%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	35%以上増	34%～25%増	24%～10%増	10%未満				
A	B	C	D									
35%以上増	34%～25%増	24%～10%増	10%未満									
教職員研修を積極的に推進し、教科指導力を始めとした教育職員としての資質を高めることにより、総合的な教育力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合教育センターが開催する研修講座等の受講を推進する。 [延べ年間受講回数]（初任者研修、2年目研修を除く。）</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40回以上</td> <td>39～35回</td> <td>34～20回</td> <td>19回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	40回以上	39～35回	34～20回	19回以下			
	A	B	C	D								
40回以上	39～35回	34～20回	19回以下									
<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業の達人」に指定されている他校教員等の授業参観及びチャレンジサポート事業を活用した予備校講師による講義の受講を推進し、授業力の向上を図る。 [延べ年間参観・受講人数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20名以上</td> <td>19～15名</td> <td>14～10名</td> <td>9名以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20名以上	19～15名	14～10名	9名以下				
A	B	C	D									
20名以上	19～15名	14～10名	9名以下									
総務企画部	多くの小・中学校や保護者・地域住民等に、本校の魅力ある教育活動の発信に努めるとともに、目的意識の高い生徒の出願につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学3年生対象の学校説明会で、参加者数の増大を図る。 [参加者数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500人以上</td> <td>499～450名</td> <td>449～400名</td> <td>399人以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	500人以上	499～450名	449～400名	399人以下		
		A	B	C	D							
		500人以上	499～450名	449～400名	399人以下							
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの充実に努め、アクセス数の増大を図る。 [ホームページのアクセス回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>110万回以上</td> <td>100万回～110万回</td> <td>90万回～100万回</td> <td>90万回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	110万回以上	100万回～110万回	90万回～100万回	90万回未満		
A	B	C	D									
110万回以上	100万回～110万回	90万回～100万回	90万回未満									
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ及びFacebookによる新企画の掲載</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4企画以上</td> <td>3企画</td> <td>2企画</td> <td>1企画以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	4企画以上	3企画	2企画	1企画以下				
A	B	C	D									
4企画以上	3企画	2企画	1企画以下									
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に対する教育活動の発信を充実させる。 [栗田地区回覧板による情報発信回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20回以上</td> <td>19・18回</td> <td>17・16回</td> <td>15回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20回以上	19・18回	17・16回	15回以下				
A	B	C	D									
20回以上	19・18回	17・16回	15回以下									
生徒が人権について、自ら考え、正しい判断・行動ができるよう、生徒指導部と連携し、個々の内面に迫る指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権だよりの発行、生徒が作成するポスターや標語等で人権について考える機会を継続的に持たせる。（昨年度人権だよりの4回発行） [人権だよりの発行回数・人権ポスター及び標語の掲示等の年間合計取組回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7回以上</td> <td>6回</td> <td>2/13 5回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7回以上	6回	2/13 5回	4回			
A	B	C	D									
7回以上	6回	2/13 5回	4回									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
教務部	分掌内の連携を強化し、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部内の連携を強化し、共通認識を持って職務に当たることによって互いを補完し、業務の効率化と正確な業務を推進する。</li> </ul> <p>[教務部会の実施回数/年]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25回以上</td> <td>24～20回</td> <td>19～15回</td> <td>14回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	25回以上	24～20回	19～15回	14回以下		
	A	B	C	D								
	25回以上	24～20回	19～15回	14回以下								
	次の学習指導要領を考慮し、アクティブ・ラーニング（以降、ALと表記）等の新しい指導・評価方法の研修に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の公開授業週間をAL等指導週間と位置づけ、各教科で新しい指導・評価方法を試行（実施）し、次世代教育に対応する授業力の向上に努める。</li> </ul> <p>[授業公開週間中のAL実施率、実施教員/全教員（ただし、非常勤講師を除く）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～65%</td> <td>64～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～65%	64～50%	50%未満		
A	B	C	D									
80%以上	79～65%	64～50%	50%未満									
学習姿勢や状況を点検し、その意義を日常から生徒に伝え、自主的・主体的に学習に向かわせることで学力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の巡回指導や定期考査前の学習時間調査等を実施し、学習指導を推進する。</li> </ul> <p>[定期考査前1週間（休日含む）の1日平均学習時間]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.3時間以上</td> <td>3～3.2時間</td> <td>2.7～2.9時間</td> <td>2.7時間未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3.3時間以上	3～3.2時間	2.7～2.9時間	2.7時間未満			
A	B	C	D									
3.3時間以上	3～3.2時間	2.7～2.9時間	2.7時間未満									
生徒情報（欠課、資格取得等）の収集方法を改善し、教務上のミス未然に防止するとともに、より正確な記録を残す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠管理を「日々入力」に切り替えるとともに、資格手帳等を新規に導入し、チェック機能を高めることにより、教務書類（通知票・指導要録・調査書等）への誤記載を未然に防止する。</li> </ul> <p>[教務部書類（通知票・指導要録・調査書等）の誤記載件数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5件以下</td> <td>6～10件</td> <td>11～15件</td> <td>16件以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5件以下	6～10件	11～15件	16件以上			
A	B	C	D									
5件以下	6～10件	11～15件	16件以上									
生徒指導部	生徒と教職員の信頼関係の構築を基盤に人権意識と規範意識を高めるシティズンシップ教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒への声掛けや挨拶等の働きかけをきっかけに、生徒とのコミュニケーションを図る。また、いじめアンケート、生徒指導アンケート、下宿生アンケート等を活用し、問題行動の未然防止に努める。（昨年度59名特別指導）</li> </ul> <p>[特別指導件数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～10名</td> <td>11～20名</td> <td>21～30名</td> <td>31名以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0～10名	11～20名	21～30名	31名以上		
	A	B	C	D								
	0～10名	11～20名	21～30名	31名以上								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲の向上と学習習慣の定着を図るため、授業中の巡回指導等を行い授業規律の確保に努めることで、授業規律等報告用紙を活用した指導者の減少を目指す。（昨年度23名指導）</li> </ul> <p>[授業規律等報告用紙指導人数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～5名</td> <td>6～10名</td> <td>11～20名</td> <td>21名以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0～5名	6～10名	11～20名	21名以上			
A	B	C	D									
0～5名	6～10名	11～20名	21名以上									
生徒指導部の取組情報の発信を行い本校教育に対する理解と協力を求め、信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動、ボランティア活動、下宿生活の様子等をホームページに掲載する。（昨年度25回掲載）</li> </ul> <p>[ホームページ掲載回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60回以上</td> <td>50～59回</td> <td>40～49回</td> <td>39回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60回以上	50～59回	40～49回	39回以下			
A	B	C	D									
60回以上	50～59回	40～49回	39回以下									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																							
進路指導部	3年間を見通した一貫性のある進路指導体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種進路指導を「海洋プロジェクト」として展開し、効果的な進路指導を実現する。 [進路意識調査に対する満足度]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>94~90%</td> <td>89~85%</td> <td>85%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	94~90%	89~85%	85%未満																	
	A	B	C	D																							
	95%以上	94~90%	89~85%	85%未満																							
	学年に応じた進路意識を定着させるとともに、スタディサブリを活用して進路実現並びに社会生活で求められる学力や表現力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間「キャリアチャレンジ」等を活用した進路学習を展開する。 [2年生3学期における志望先の決定状況]</li> <li>到達度テストやチェックテスト等を活用して、講座並びに個に応じた指導を展開する。 [スタディサブリを活用した進学・ベースアップ補習の実施回数]</li> <li>スタディサブリの「よのなか科」を活用してブレインストーミングを行い、受験や社会生活で求められる「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」等を高める。 [「よのなか科」の実施回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>94~90%</td> <td>89~85%</td> <td>85%未満</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20回以上</td> <td>15~19回</td> <td>10~14回</td> <td>9回以下</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15回以上</td> <td>12~14回</td> <td>9~11回</td> <td>8回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	94~90%	89~85%	85%未満	A	B	C	D	20回以上	15~19回	10~14回	9回以下	A	B	C	D	15回以上	12~14回	9~11回	8回以下	
A	B	C	D																								
95%以上	94~90%	89~85%	85%未満																								
A	B	C	D																								
20回以上	15~19回	10~14回	9回以下																								
A	B	C	D																								
15回以上	12~14回	9~11回	8回以下																								
学年部を始め関係分掌と連携し、進路実現に向けての統一した指導を実践し、希望進路を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路検討会議情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路を実現させる。 [就職における一次内定率]</li> <li>[進学における第1希望校合格率]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>90~94%</td> <td>85~89%</td> <td>85%未満</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85%以上</td> <td>80~84%</td> <td>75~79%</td> <td>75%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	90~94%	85~89%	85%未満	A	B	C	D	85%以上	80~84%	75~79%	75%未満										
A	B	C	D																								
95%以上	90~94%	85~89%	85%未満																								
A	B	C	D																								
85%以上	80~84%	75~79%	75%未満																								
保健部	校内の安全安心な環境を維持するために点検を行い、改善が必要なところは保健部から提案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の清掃について、保健部が定期的に清掃点検をする。 [年間の清掃点検の回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24回以上</td> <td>18~23回</td> <td>12~17回</td> <td>11回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	24回以上	18~23回	12~17回	11回以下																	
	A	B	C	D																							
	24回以上	18~23回	12~17回	11回以下																							
生徒の情報共有に努め、「チーム海洋」としての組織力強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の状態を学校全体で把握する。 [生徒の保健室・スクールカウンセラー利用状況のデータ更新間隔]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7日以内</td> <td>8~14日</td> <td>15~21日</td> <td>22日以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7日以内	8~14日	15~21日	22日以上																		
A	B	C	D																								
7日以内	8~14日	15~21日	22日以上																								
身体測定や各種検査、委員会活動等、学校の様子を広く外部に発信し、保護者の理解、協力を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への情報発信を小まめに行う。 [ホームページ更新の各項目における回数/年]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各12回以上</td> <td>各9~11回</td> <td>各6~10回</td> <td>各5回以内</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	各12回以上	各9~11回	各6~10回	各5回以内																		
A	B	C	D																								
各12回以上	各9~11回	各6~10回	各5回以内																								

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題											
事務部	魅力ある専門教育を追究し、質の高い授業及び実習を展開するための予算執行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、分掌、学科・コース予算及び各種事業費予算について、効果的に活用するために早期の執行を促し、連携に努めながら、より効果的な研究活動の推進や学力向上に寄与する。</li> </ul> <p>[12月末の予算執行率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91%以上</td> <td>80～89%</td> <td>70～79%</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	91%以上	80～89%	70～79%	70%未満					
	A	B	C	D											
	91%以上	80～89%	70～79%	70%未満											
教職員間の連携を密にし、安心・安全な教育環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備について安全点検を行い、安心・安全な教育環境を維持し、事故の防止に努める。</li> </ul> <p>[1年間の点検回数（上段）と改善率（下段）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12回以上</td> <td>9～11回</td> <td>6～8回</td> <td>5回以下</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70～89%</td> <td>50～69%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	12回以上	9～11回	6～8回	5回以下	90%以上	70～89%	50～69%	50%未満		
A	B	C	D												
12回以上	9～11回	6～8回	5回以下												
90%以上	70～89%	50～69%	50%未満												
家庭への連絡等の情報発信を行い、信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務部からの援護制度等の案内を、ホームページにおいてもその都度速やかに掲載する。</li> </ul> <p>[ホームページ更新回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24回以上</td> <td>18～23回</td> <td>12～17回</td> <td>11回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	24回以上	18～23回	12～17回	11回以下						
A	B	C	D												
24回以上	18～23回	12～17回	11回以下												
みずなぎ	全ての実習を通して安全・安心を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船実習時、前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。</li> </ul> <p>[操練実施回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12回以上</td> <td>10～11回</td> <td>7～9回</td> <td>6回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	12回以上	10～11回	7～9回	6回以下					
	A	B	C	D											
	12回以上	10～11回	7～9回	6回以下											
規律ある船内生活を通してシーマンシップを育成するとともに、規律意識の高い生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船実習中においても、服装、挨拶等の基本的生活習慣の徹底を図る。</li> </ul> <p>[基本的生活習慣の指導実施率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>80～99%</td> <td>60～79%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	80～99%	60～79%	60%未満						
A	B	C	D												
100%	80～99%	60～79%	60%未満												
実習船「みずなぎ」の機能を十分に活用した魅力ある実習を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>より充実した実習にするために、打ち合わせ、反省会を実施する。</li> </ul> <p>[打ち合わせ、反省会の実施率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>80～99%</td> <td>60～79%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	80～99%	60～79%	60%未満						
A	B	C	D												
100%	80～99%	60～79%	60%未満												
寮務部	黒潮寮での教育活動の様子を発信し、信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページでの発信の回数を増加させ、きめ細かな情報提供を行う。</li> </ul> <p>[ホームページでの発信（昨年度比）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%以上増</td> <td>30～49%増</td> <td>0～29%増</td> <td>減少</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50%以上増	30～49%増	0～29%増	減少					
	A	B	C	D											
50%以上増	30～49%増	0～29%増	減少												
黒潮寮生としての自覚と責任感を持たせ、人権意識を高め、学校全体を牽引する人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識の向上による特別指導件数の減少を目指す。</li> </ul> <p>[特別指導件数の減少（昨年度比）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%以上減</td> <td>25～49%減</td> <td>昨年度と同じ</td> <td>増加</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50%以上減	25～49%減	昨年度と同じ	増加						
A	B	C	D												
50%以上減	25～49%減	昨年度と同じ	増加												

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
第1学年部	<p>家庭学習習慣の確立を図り、進路実現に向けた基礎学力の獲得を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>S HR等で定期的に学習時間のチェックを行うことで毎日の学習習慣の定着を図る。 [毎日の家庭学習を1時間以上行っている生徒の割合]  <table border="1" data-bbox="645 475 1489 523"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80~89%</td> <td>70~79%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table> </li> <li>早期から資格や検定にチャレンジさせ、生徒のキャリアアップを図る。 [1人当たりの資格、検定取得数(総取得資格数/生徒数により算出する。)]  <table border="1" data-bbox="645 603 1489 651"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.1個以上</td> <td>2.1個~3.0個</td> <td>1.1~2.0個</td> <td>1.0個以下</td> </tr> </table> </li> </ul>	A	B	C	D	90%以上	80~89%	70~79%	70%未満	A	B	C	D	3.1個以上	2.1個~3.0個	1.1~2.0個	1.0個以下		
	A	B	C	D																
	90%以上	80~89%	70~79%	70%未満																
	A	B	C	D																
	3.1個以上	2.1個~3.0個	1.1~2.0個	1.0個以下																
	<p>学校生活を通して、社会人として必要な生活習慣を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>log note等を活用し、自己管理能力を向上させ、欠席する生徒の減少を目指す。 [1年間無欠席の生徒の数]  <table border="1" data-bbox="645 730 1489 778"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89~80%</td> <td>79~70%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table> </li> <li>部活動参加を積極的に促し、年間を通して全員加入の状態を目指す。 [学年末部活動加入率]  <table border="1" data-bbox="645 858 1489 906"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>99~95%</td> <td>94~90%</td> <td>90%未満</td> </tr> </table> </li> </ul>	A	B	C	D	90%以上	89~80%	79~70%	70%未満	A	B	C	D	100%	99~95%	94~90%	90%未満		
A	B	C	D																	
90%以上	89~80%	79~70%	70%未満																	
A	B	C	D																	
100%	99~95%	94~90%	90%未満																	
<p>さまざまな教育活動を通して自己有用感や人権意識を育み、生徒一人一人の内面からの規範意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HRや学年集会を通して、他者を尊重する態度を育む機会を積極的に設ける。 [学年の取組の回数]  <table border="1" data-bbox="645 1002 1489 1050"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table> </li> <li>奉仕活動紹介やその意義についてのアプローチを積極的に行い、生徒の自主的な参加を促す。 [1人あたりのボランティア活動の参加回数(総参加回数/生徒数により算出する。)]  <table border="1" data-bbox="645 1145 1489 1193"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.1回以上</td> <td>2.1~3.0回</td> <td>1.1~2.0回</td> <td>1.0回以下</td> </tr> </table> </li> </ul>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A	B	C	D	3.1回以上	2.1~3.0回	1.1~2.0回	1.0回以下			
A	B	C	D																	
5回以上	4回	3回	2回以下																	
A	B	C	D																	
3.1回以上	2.1~3.0回	1.1~2.0回	1.0回以下																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題															
第2学年部	生徒の希望進路実現に向け、学習に取り組む姿勢や習慣を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己管理ノートの活用や学年、個別指導及び教科との連携により、家庭等での学習時間を伸ばし、学力の向上を図る。 [定期考査1週間前(平日)及び考査期間の家庭学習時間3時間以上の生徒の割合]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>45~59%</td> <td>25~44%</td> <td>25%未満</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul>	A	B	C	D	60%以上	45~59%	25~44%	25%未満									
	A	B	C	D															
	60%以上	45~59%	25~44%	25%未満															
		<ul style="list-style-type: none"> <li>[成績会議での成績優秀者の人数(3クラスの平均値)]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8名以上</td> <td>6~7名</td> <td>4~5名</td> <td>3名以下</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul>	A	B	C	D	8名以上	6~7名	4~5名	3名以下									
A	B	C	D																
8名以上	6~7名	4~5名	3名以下																
自立と自律を目指し、高校生としての自覚と誇りを醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や委員会等を活用して学年や学級運営に取り組み、生徒の自主性とシティズンシップの向上を図る。 [生徒の自主活動取組件数]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8件以上</td> <td>6~7件</td> <td>4~5件</td> <td>3件以下</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>自立と貢献の精神を育むボランティア活動に積極的に参加する。 [1人あたりのボランティア活動参加回数]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5.1回以上</td> <td>4.1~5.0回</td> <td>3.1~4.0回</td> <td>3.0回以下</td> </tr> </tbody> </table> (寮、部活動、生徒会等の日常的な活動は除く。)</li> </ul>	A	B	C	D	8件以上	6~7件	4~5件	3件以下	A	B	C	D	5.1回以上	4.1~5.0回	3.1~4.0回	3.0回以下		
A	B	C	D																
8件以上	6~7件	4~5件	3件以下																
A	B	C	D																
5.1回以上	4.1~5.0回	3.1~4.0回	3.0回以下																
規範意識を高めるとともに、自他を尊重する心を育み、落ち着いた学校生活と学習環境を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導対象行為を未然に防ぐ観点から、日常的にルールやマナーを守らせるとともに、正しい身なりや服装の指導を定着させる。 [定期指導時(考査期間等)の頭髪服装指導件数]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6件以下</td> <td>7~12件</td> <td>13~18件</td> <td>19件以上</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul>	A	B	C	D	6件以下	7~12件	13~18件	19件以上										
A	B	C	D																
6件以下	7~12件	13~18件	19件以上																
進路意識を向上させ、希望進路の選定に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路学習や進路面談等を通じて、希望進路実現に向けての意識向上を図り、早期に希望進路先の決定を図る。 [2学期末における進路希望先の決定状況]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>80~89%</td> <td>70~79%</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>資格や検定の取得を推進し、生徒のキャリアアップを図る。 [1人あたりの資格・検定取得平均]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.1個以上</td> <td>2.1~3.0個</td> <td>1.1~2.0個</td> <td>1.0個以下</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul>	A	B	C	D	90%以上	80~89%	70~79%	70%未満	A	B	C	D	3.1個以上	2.1~3.0個	1.1~2.0個	1.0個以下		
A	B	C	D																
90%以上	80~89%	70~79%	70%未満																
A	B	C	D																
3.1個以上	2.1~3.0個	1.1~2.0個	1.0個以下																

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
第3学年部	学力の向上と希望進路の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な指導の積み重ねにより生徒の進路意識の向上を図り、他分掌等とも連携を深めることで、希望進路を実現させる。                [第1希望合格率]  <table border="1" data-bbox="645 534 1491 582"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>90~94%</td> <td>85~89%</td> <td>85%未満</td> </tr> </tbody> </table>               ※上記の学年目標に則して、各クラスで目標値を設定する。             </li> <li>日常的な指導に積み重ねと教科等との連携を深めることで、次の5つの目標を達成できるように努める。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 検査前学習時間が平均2時間未満の延べ生徒数を昨年度比で30%減少させる。</li> <li>2 欠課通知カード(10%)を昨年度比で30%減少させる。</li> <li>3 学年末評価平均値を7.4以上にする。</li> <li>4 学年末の成績優秀生徒数を35人以上にする。</li> <li>5 学年末において不認定科目を出さない。</li> </ol>               [達成できた項目数]  <table border="1" data-bbox="645 826 1491 874"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5項目</td> <td>4項目</td> <td>3項目</td> <td>2項目以下</td> </tr> </tbody> </table>               ※上記の学年目標に則して、各クラスで目標値を設定する。             </li> </ul>	A	B	C	D	95%以上	90~94%	85~89%	85%未満	A	B	C	D	5項目	4項目	3項目	2項目以下		
	A	B	C	D																
95%以上	90~94%	85~89%	85%未満																	
A	B	C	D																	
5項目	4項目	3項目	2項目以下																	
基本的生活習慣の定着及び心の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な指導の積み重ねと保護者等との連携により、規範意識と人権意識の向上を図る。このことにより、次の4つの目標を達成できるように努める。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業規律指導報告を昨年度比で30%減少させる。</li> <li>2 頭髪服装指導件数を昨年度比で30%減少させる。</li> <li>3 特別指導件数を受ける生徒の延べ人数を昨年度比で30%減少させる。</li> <li>4 卒業式において、指導を受ける生徒をなくす。</li> </ol>               [達成できた項目数]  <table border="1" data-bbox="645 1093 1491 1141"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4項目</td> <td>3項目</td> <td>2項目</td> <td>1項目以下</td> </tr> </tbody> </table>               ※上記の学年目標に則して、各クラスで目標値を設定する。             </li> </ul>	A	B	C	D	4項目	3項目	2項目	1項目以下											
A	B	C	D																	
4項目	3項目	2項目	1項目以下																	



評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
海洋科学科	地元水産・海洋関連産業を始め、関連外部機関と連携し、最先端の分野に触れるとともに、専門性を深化させ、地域の活性化に貢献する人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習内容を精選し、地域や関係機関、大学等との連携を推進する。 [新規の外部連携先もしくは形態数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下		
	A	B	C	D								
	5回以上	4回	3回	2回以下								
	自己有用感や主体性を育み、希望進路実現に向かう力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路面談、面接練習を通して、きめ細かい進路指導を実施する。 [学期毎の平均面談・面接練習回数（実施回数／生徒数）]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5回</td> <td>2回</td> <td>1.5回</td> <td>1回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	2.5回	2回	1.5回	1回以下		
	A	B	C	D								
2.5回	2回	1.5回	1回以下									
「居場所」と「出番」を意識した教育活動を実施する。 [異学年交流実施回数]	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7回以上</td> <td>5～6回</td> <td>3～5回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7回以上	5～6回	3～5回	2回以下			
A	B	C	D									
7回以上	5～6回	3～5回	2回以下									
第3学年において、希望進路を実現させる。 [第1志望合格率]	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>79～99%</td> <td>60～78%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	79～99%	60～78%	60%未満			
A	B	C	D									
100%	79～99%	60～78%	60%未満									
OJTの観点から、教員の専門性を高めるとともに、幅広い視野を備えた、質の高い教育活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自らが学ぶ姿勢を示すことで、生徒の学ぶ意欲を引き出す。 [スキルアップのための自己研修（平均回数）]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下			
A	B	C	D									
5回以上	4回	3回	2回以下									
海洋工学科 航海船舶コース	常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認の徹底を図る。 また、実習の様子をタイムリーに発信し、保護者の安心につなげる。 (短期経営目標5 安心・安全の徹底、同9 家庭、地域との連絡及び連携の強化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の実習においてもKYT（危険予測トレーニング）を取り入れる。</li> <li>キャリアトライアルでは生徒アンケートを実施し、反省検討の材料とする。</li> <li>GLOBAL観測やキャリアトライアル実施後、翌週には学校ホームページにアップする。 [生徒アンケート（自身の緊張感の項目で肯定の割合）]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93%以上</td> <td>84～92%</td> <td>75～83%</td> <td>75%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	93%以上	84～92%	75～83%	75%未満		
	A	B	C	D								
	93%以上	84～92%	75～83%	75%未満								
知的財産に関する能力を育成する教育活動を新規に導入する。 (短期経営目標4「課題発見力」「知的体力」に資する専門教育の推進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度に採択された「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」に則して、授業・指導活動を実践し、地域交流・研究協議会及び報告会に参加する。 [取組件数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10件以上</td> <td>6～9件</td> <td>3～5件</td> <td>2件以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10件以上	6～9件	3～5件	2件以下			
A	B	C	D									
10件以上	6～9件	3～5件	2件以下									
専門性の高い資格を取得（合格）させ、関連の進路（進学）先で活躍できる人材を育成する。 (短期経営目標1(4) 学習する癖を身に付け、安定して学習と向き合う生徒を育む。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>四級海技士（航海）筆記試験合格、第二級海上特殊無線技士及び二級小型船舶操縦士の資格取得を航海船舶コースの標準目標とする。 ※数値目標：海技士三級3名・四級4名、二海特5名、小船二級10名・一級7名 [上記項目達成数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5項目以上</td> <td>4項目</td> <td>3項目</td> <td>2項目以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5項目以上	4項目	3項目	2項目以下			
A	B	C	D									
5項目以上	4項目	3項目	2項目以下									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
海洋工学科 海洋技術コース	マリンエンジニアに関わる専門性の高い教科指導等により、将来のスペシャリストを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験潜水士合格率を高めるとともに、潜水技術検定1級取得者を出す。</li> </ul> <p>[潜水士合格率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>75~89%</td> <td>60~74%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>[潜水技術検定1級取得者数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10人以上</td> <td>8~9人</td> <td>6~7人</td> <td>5人以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	75~89%	60~74%	60%未満	A	B	C	D	10人以上	8~9人	6~7人	5人以下		
	A	B	C	D																
	90%以上	75~89%	60~74%	60%未満																
	A	B	C	D																
10人以上	8~9人	6~7人	5人以下																	
校内外における連携強化により、特色ある実習製品のブランド価値向上とエコサイクルの確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトデ・ウニ堆肥の連携販売量を増やし、販売を促進する。</li> </ul> <p>[販売量]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>420袋以上</td> <td>300~419袋</td> <td>250~299袋</td> <td>249袋以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[堆肥製造や活用等の連携回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回以上</td> <td>8~9回</td> <td>6~7回</td> <td>5回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	420袋以上	300~419袋	250~299袋	249袋以下	A	B	C	D	10回以上	8~9回	6~7回	5回以下			
A	B	C	D																	
420袋以上	300~419袋	250~299袋	249袋以下																	
A	B	C	D																	
10回以上	8~9回	6~7回	5回以下																	
進路相談や面談等により生徒の進路意識を高め、希望進路の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒対象の進路面談を実施し、コース関連の進路先を踏まえた進路指導を行う。</li> </ul> <p>[海洋技術コース2・3年生との面談回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4回以上</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[関連進路先の内定合格率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>60~69%</td> <td>50~59%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	4回以上	3回	2回	1回以下	A	B	C	D	70%以上	60~69%	50~59%	50%未満			
A	B	C	D																	
4回以上	3回	2回	1回以下																	
A	B	C	D																	
70%以上	60~69%	50~59%	50%未満																	
学力向上を目指し、生徒の積極性や意欲を引き出すことができる教科指導力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース担当教員の授業参観や専門研修を通じて指導方法等の授業力向上を図る。</li> </ul> <p>[授業参観・研修回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下											
A	B	C	D																	
5回以上	4回	3回	2回以下																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
栽培環境コース	栽培環境コースにおける授業や実習の成果を確実に出し、自己有用感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>主力生産物であるホンモロコの年間育成量の増加を図る。 [ホンモロコ育成量の対前年比(%)]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>250%以上</td> <td>200~249%</td> <td>150~199%</td> <td>150%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	250%以上	200~249%	150~199%	150%未満		
		A	B	C	D							
	250%以上	200~249%	150~199%	150%未満								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培漁業技術検定を始めとした資格検定の取得を推進する。 [資格検定取得数(総取得資格数/生徒数により算出する。)]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5個以上</td> <td>4個</td> <td>3個</td> <td>2個以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5個以上	4個	3個	2個以下			
A	B	C	D									
5個以上	4個	3個	2個以下									
面談、個別相談等を適宜実施し、関連進路先を中心とした希望進路の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1希望進路先への内定・合格率(就職+進学)を向上させる。 [第1希望内定・合格率]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>80~99%</td> <td>60~79%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	80~99%	60~79%	60%未満			
A	B	C	D									
100%	80~99%	60~79%	60%未満									
地域活性化に繋がる教育活動を展開していくために、外部機関との連携に努め、栽培環境コースが取り組むべき研究等の検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元水産・海洋関連機関を始め、さまざまな研究機関や関連企業、自治体と連携し、教員及び生徒の学識向上を図るとともに、地域活性化に繋がる取組を実施する。 [実習における外部関連機関との連携回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20回以上</td> <td>15~19回</td> <td>10~14回</td> <td>9回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20回以上	15~19回	10~14回	9回以下			
A	B	C	D									
20回以上	15~19回	10~14回	9回以下									
食品経済コース	関係諸機関や他の分掌と十分に連携し、生徒指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習ごとに頭髪服装検査を行い、日頃から指導を徹底する。 [頭髪服装指導の件数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0件</td> <td>1~5件</td> <td>6~10件</td> <td>11件以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0件	1~5件	6~10件	11件以上		
	A	B	C	D								
0件	1~5件	6~10件	11件以上									
コース内での連携を十分にに行い、生徒の希望進路に即した授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース内の共通認識を深めるとともに、学年部、生徒指導部との連携を強めるとともに、それぞれの情報をコース会議で共通理解する。 [コース会議の回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30回以上</td> <td>25~29回</td> <td>20~24回</td> <td>19回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	30回以上	25~29回	20~24回	19回以下			
A	B	C	D									
30回以上	25~29回	20~24回	19回以下									
国語科	基礎学力の定着と国語に対する意欲・関心を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>府高実力テストにおいて、成績を向上させることで一般入試にも対応できる学力を身に付ける。特に進学補習を通じて、古典・漢文の学習を強化し、更なる国語力の向上を目指す [1、2年の1月府高実力テスト偏差値60以上の生徒数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60人以上</td> <td>55~59人</td> <td>50~54人</td> <td>49人以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60人以上	55~59人	50~54人	49人以下		
		A	B	C	D							
60人以上	55~59人	50~54人	49人以下									
<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の基礎となる漢字力を向上させるため、毎週漢字テストを実施し、漢字検定を受検する意識を促す。特に進学補習を通して受検を呼びかけ、過去問題を配布するなどして意欲・関心を高めるとともに、合格者数の増加を目指す。 [漢字検定の3級以上の合格者]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40人以上</td> <td>35~39人</td> <td>30~34人</td> <td>29人以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	40人以上	35~39人	30~34人	29人以下				
A	B	C	D									
40人以上	35~39人	30~34人	29人以下									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
地歴・公民科	<p>学びの癖をつける学習指導の徹底に努める。観点別学習状況の評価を充実させ、すべての生徒に確かな学力を身に付けさせるとともに、生徒の学習意欲を向上させ、普通科教科の質を保証する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価の[技能][思考・判断・表現]を統括的に評価するパフォーマンス課題（各学期2回、各10点）において、平均得点を向上させる。 [パフォーマンス課題の平均得点]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>9.0～9.9</td> <td>8.0～8.9</td> <td>8.0未満</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度実施予定のニュース時事能力検定において、合格できる力を育成する。 [N検合格者数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20名以上</td> <td>15～19名以上</td> <td>10～14名以上</td> <td>9名以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10	9.0～9.9	8.0～8.9	8.0未満	A	B	C	D	20名以上	15～19名以上	10～14名以上	9名以下		
	A	B	C	D																
10	9.0～9.9	8.0～8.9	8.0未満																	
A	B	C	D																	
20名以上	15～19名以上	10～14名以上	9名以下																	
	<p>主権者教育の柱の科目として、政治的教養を育むこと、法やルールに関する教育の実践、地域貢献・地域連携活動の3つの視点を意識して、ALの手法を用いて、国家・社会の形成者としての資質を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目「現代社会」（1、3年履修）において主権者教育を推進する。 [主権者教育に係る授業実施回数（各学年）]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回以上</td> <td>7～9回</td> <td>4～6回</td> <td>3回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10回以上	7～9回	4～6回	3回以下										
A	B	C	D																	
10回以上	7～9回	4～6回	3回以下																	
数学科	<p>数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。 また、検定合格に向けた学習を通して、苦手分野を克服するとともに、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業、進学補習等で教科担当者が積極的に数学検定の受検を呼びかけ、受検者の増加を目指す。 [数学検定受検者数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70人以上</td> <td>55～69人</td> <td>40～54人</td> <td>39人以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70人以上	55～69人	40～54人	39人以下										
	A	B	C	D																
70人以上	55～69人	40～54人	39人以下																	
	<p>外部模試を十分に活用できていない現状を打破し、模試に対する生徒の意識を向上させる。 模試対策・振り返りを通して、既習事項を確実に定着させ、希望進路実現につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の課題や進学補習等での対策・振り返りを充実させることで、外部模試への意識向上を図り、実力診断・判定テストのBゾーン以上の人数増加を目指す。 [1・2年生の実力診断・判定テストのBゾーン以上の割合]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%以上</td> <td>40～49%</td> <td>30～39%</td> <td>30%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50%以上	40～49%	30～39%	30%未満										
A	B	C	D																	
50%以上	40～49%	30～39%	30%未満																	
理科	<p>学力の向上と希望進路の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に弱点となっている内容説明の仕方や発問の仕方について改善することやALやICTの活用を含めた教材の研究時間を確保することで授業内容の充実を図る。 [授業評価における評価点の平均値]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.9以上</td> <td>3.8</td> <td>3.7</td> <td>3.7未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3.9以上	3.8	3.7	3.7未満										
	A	B	C	D																
3.9以上	3.8	3.7	3.7未満																	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ALとICTを活用した授業の実施と計画的な学習指導（課題や小テストの反復等）の実施により、学習した内容を使って問題を解けるレベルまで生徒の学力引き上げるよう努める。 [学年末の評価平均値]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.9以上</td> <td>7.7～7.8</td> <td>7.4～7.6</td> <td>7.4未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7.9以上	7.7～7.8	7.4～7.6	7.4未満										
A	B	C	D																	
7.9以上	7.7～7.8	7.4～7.6	7.4未満																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
保健体育科	規範意識を徹底することにより、緊張感を持って授業に臨む姿勢を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時の服装違反を減少させる。 [昨年度(372件)比]</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20%減</td> <td>10~19%減</td> <td>5~9%減</td> <td>4%減以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20%減	10~19%減	5~9%減	4%減以下		
	A	B	C	D								
	20%減	10~19%減	5~9%減	4%減以下								
遅い生徒を育成するため、体力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>15分間走における昨年度(春・秋)の平均記録を更新する。 [記録差]</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>150m以上</td> <td>75~149m</td> <td>0~74m</td> <td>減少</td> </tr> </table>	A	B	C	D	150m以上	75~149m	0~74m	減少			
A	B	C	D									
150m以上	75~149m	0~74m	減少									
保健体育科の取組をホームページに掲載し、本校の教育活動の発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ掲載回数を増やす。 [掲載回数]</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>13~19回</td> <td>7~12回</td> <td>6回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20回以上	13~19回	7~12回	6回以下			
A	B	C	D									
20回以上	13~19回	7~12回	6回以下									
芸術科	生徒一人一人が作品と向き合う中で、意欲的に制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に制作の過程を踏み、作品を期限内に完成させ、提出する。 [期限内の作品提出状況]</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>90~99%</td> <td>70~89%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	90~99%	70~89%	70%未満		
A	B	C	D									
100%	90~99%	70~89%	70%未満									
英語科	授業力の向上及び生徒の学力伸長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な学習指導(週末課題や小テスト等)の実施により、4技能の定着を図り、生徒の学力向上に努める。 [英検準2級と3級の過去問題の平均得点率の変化]</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8%以上増</td> <td>5~7%増</td> <td>2~4%増</td> <td>2%未満増</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8%以上増	5~7%増	2~4%増	2%未満増		
	A	B	C	D								
	8%以上増	5~7%増	2~4%増	2%未満増								
非常勤講師を含めた教科内での授業公開を実施し、共有する指導目標の明確化を図り、生徒の学力向上に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科内での授業参観回数</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>15回以上</td> <td>9~14回</td> <td>4~8回</td> <td>3回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	15回以上	9~14回	4~8回	3回以下			
A	B	C	D									
15回以上	9~14回	4~8回	3回以下									
進路に向かって力強く歩む心を育くむため、能動的な学習活動を通じて、自己肯定感と自己有用感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自学自習の習慣化を促す指導を心掛け、英語学習に対する苦手意識を改善する。 [英語学習に対する自己有用感の上昇者数の割合]</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>15%以上</td> <td>9~14%</td> <td>3~8%</td> <td>3%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	15%以上	9~14%	3~8%	3%未満			
A	B	C	D									
15%以上	9~14%	3~8%	3%未満									
家庭科	人の一生と家族、家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入を徹底する。 [学習プリントの記入割合]</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>90~99%</td> <td>75~89%</td> <td>75%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	90~99%	75~89%	75%未満		
	A	B	C	D								
100%	90~99%	75~89%	75%未満									
	生活を充実向上させるために必要な基礎的、基本的な技術を身に付けさせる。 [衣食住の各分野における実習実施回数]	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table> (衣食住の各分野からバランスよく実施する。)	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下		
A	B	C	D									
5回以上	4回	3回	2回以下									

学校関係者評価委員会による評価

次年度への改善の方向性

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった